レッスン：PYR No.37

テーマ：三角形 /創造界におけるLifeの目的

PYR37 KE06/ L3

私の姉妹・兄弟たち、

スピリット、光、火の子供達よ。私たちは常に主、絶対、主の聖性のなかに抱かれています。

　前回のレッスンでは、この創造界のなかになぜ創造とLifeの現れがあるのか、について説明しました。そして創造界における創造とLifeの現れの理由は、絶対存在の終わりなき黙想の結果です。

　その結果としてなぜ創造するのか、何が起きているのか、創造とLifeの現れを避ける方法があるのか？レッスンの中でそのような方法はないと述べました。なぜなら、Lifeの主な特質は動き・振動・波動だからです。そして動きがあるとき、それによって、言い換えれば結果、影響があり、この場合には創造界であり、この創造界におけるLifeの現れです。

　さて、創造の手段はどこから来るのでしょうか？それもまたLifeそれ自体、絶対存在からです。レッスンで述べたように、諸宇宙を創造する手段はマインドの様々な波動です。そして説明したように、マインドは聖霊ではないが聖なるものであり、それはLifeの本質から来ます。そそれ自体を現わすためにこの手段を使っているLifeの現れ、それはLifeであり、Lifeから来ます。

　ですから創造界のなかで現れているものは全て絶対存在であり、それ自身を現わしている絶対存在があり、それがどんどん続きます。

　さてそれではこの終わりなき活動の結果、誰がその恩恵を受けるのでしょうか、絶対存在でしょうか？絶対存在は何も必要としない、と述べました。そして、その活動の結果として恩恵を受けるのは、何であれ創造界の中で活動しているものです。それは人間のイデアを通じてLifeがそれ自身を現わしているものです。それもまたLifeでしょうか？違います。恩恵を得るのは現在のパーソナリティーです。なぜなら、自己実現したスピリットセルフが創造界の中でドミニオンを現わす時、このドミニオン（＊統治、統制という意味がある）は現在のパーソナリティー、つまり人間を非常に良く助けることが“できる”からです。

　それではドミニオンは何を意味するのでしょうか？彼等は様々なロゴスです…太陽系のロゴスであれ、銀河系のロゴス、または惑星のロゴスであれ。なぜなら、前に説明したように惑星ロゴスは、人類が経験しなければならないことに従って自然、惑星の物理的現象を司っています。

　ですからこれが創造界と現れの理由です。なぜならLifeの主な特質は動き・振動・波動だからです。そしてその結果として、創造界と現れがあります。

　レッスンのなかで次のように述べました…創造界にあるものはすべてディバインの黙想の動きであり、私たちは実際この動き・活動の粒子である、と。

　また過去に創造の元型である骨組みについて述べました。それは元型であるイデアフォームに、何であれLifeが命じることに応じて表現する能力を与えます。ディバインの黙想が行われている活動のなかで、何であれLifeのスパークにおいてLifeの本質を完全に表現します。

Page2

そして今、制限ある現れのなかで（それは言い換えればLifeの本質を完全には現していないという意味であり、そのフォームはありません）現れを活性化するLifeがあります。これ全てのプロセスは再び創造の大きな法則のなかに見いだしことができます。この法則とは創造の元型であり、それは人間のフォームを維持する骨組みのみならず、それは最大のものから最小のものまで、全体としての創造の大きな法則です。そしてこの大きな法則の中に創造界における他の全ての法則があります。そして他の法則という時、人間のイデアのためのそれだけでなく、聖霊的イデアのものも含まれます。そしてその法則によって、それぞれの仕事を担っている様々なアークエンジェルのオーダー、つまりLifeの現象の様々な王国（植物界、動物界等）を築いているアークエンジェルのオーダーがあります。

　さて、人間のイデアを見てみると、現れのプロセスを経験するためにスピリットセルフ・モナドからのLifeのスパークがあり、それはLifeの本質を完全に現わしており、それが創造の諸世界に入ってきます。このスパークが次に他の現れを活性化し、それがLifeの現象です。そしてこのLifeの現象が、私たちが知っている現在のパーソナリティーです。

　生命の木における絶対存在は一番上の大きな三角形によって象徴されており、それはいかなるニーズも持たず、アウタルキーの状態にある絶対存在です。そしてもう一つ同じような三角形があり、前の三角形と底辺を共有している下向きの三角形です。そしてこの三角形は終わることのないディバインの黙想の結果として、その完全性においてそれ自身の中でそれ自身を現わしています。

　しかし、同じような三角形があり、それはこの元型の一番下にあります。それは現在のパーソナリティーの三角形です。言い換えれば、仕事が達成されるのを可能にしてくれるのはこの法則です。勿論、その前の現れのプロセスがなければそれも不可能です。そしてその前のプロセスとは上から2番目の長方形です。なぜなら、この長方形のなかには全ての元型、イデア、諸法則、原因があるからです。それらから、つまりそれらのヘブンから何であれ現在のパーソナリティーの三角形のなかにあるものが達成されます。

　さて、創造の諸世界について述べ、この創造界にはLifeの様々な現れのステートがあると言いました。4つの上のヘブンではLifeはその本質を完全に現しています。3つの下のヘブン、それは現在のパーソナリティーのヘブンですが、そこではLifeの現れには制限があります。

　Lifeというとき、明確にしておきたいことがあります。現在のパーソナリティーとしてのLifeがありますが、現在のパーソナリティーを活性化するLifeのスパークには現れの制限はありません。そしてこのLifeのスパークはどこに見いだされるのでしょうか？それは全ての人間の内側にあります。すべての現在のパーソナリティーのなかに。それでは現在のパーソナリティーを活性化するLifeのスパークと絶対存在との関係は何でしょうか？それは小さなものでしょうか？答えは、このLifeのスパークは神なのです。ですから、現在のパーソナリティーとして、人間として全ての人の内側に神がいるのです。

　さて、このスパークは神より小さいと言えるでしょうか？Lifeについて話す時、それがLifeの微細なスパークであれ、それが魂のセルフエピグノシスであれ、またはスピリットモナドセルフであれ、それは全体なのです。なぜなら、そこで問題になるのは質、つまり本質だからです。なぜなら、Lifeにはいかなる限界、制限もなく、最小のものですら最大を包むことができ、勿論その反対も同じです。これが創造界および絶対LifeのなかでのLifeの現れの結果として、起きていることです。

　絶対Lifeである神があり、その神、主は全ての人間の内側にいます。そして私たちはこれを見いだすべきなのです。現在のパーソナリティーとして私たちを活性化するこのスパークを見いだすのです。そしてそれが見いだされた時、現在のパーソナリティーとしての私たちは到達したのです。終わりなきディバインの黙想としての仕事は達成されます。

　“時”が来る時、魂のセルフエピグノシスへと戻り、後には自己実現した魂がスピリットに戻る時、自己実現したスピリットはディバインの黙想の動き、活動のプロセスにおいて助けることができるようになります…さらに多くのスピリットモナドセルフがこの終わりなき動き、活動のなかでそれ自身から微細なスパークを放ち、そしてそれがえんえんと続きます。これが実際に

起きていることです。

Page3

　さて、このそれ自身の中でそれ自身を現わしている絶対存在を意味する大きな三角形は、汎宇宙的キリストロゴスを意味しています。生命の木を見れば、その最大の部分は最初の長方形のなかに入っています。そこでは実際にディバインの黙想が行われており、それは創造の終わりなきプロセスであり、それ自身のなかでそれ自身を現わしています。その（＊下向きの）大きな三角形の頂点は上から2番目の長方形のなかにあり、そこは創造の諸世界です。そしてその部分は実際、海であり、創造界における全てを活性化しています。この頂点が人間のイデアフォームを形成し、同時にそれは骨組みであり、同時に元型として人間のイデアフォームであり、そこに天人がいます。

　そして天人(Heavenly Man)と言う時、天人とは誰でしょうか？イエス・キリストロゴス絶対存在、その三角形は下向きになっており、今述べた長方形の中心にこの頂点があります。その前の部分は汎宇宙的キリストロゴスですが、ここでは創造の諸世界に入っています。

　Lifeにはいかなる境界、制限もないと言いました。ですから、今でもその小さな下向きの三角形もまた全体なのです。ですから、イエスキリストロゴス絶対存在は絶対存在と一つなのです。そして勿論、その同じポイントで上向きの三角形があります。そしてそのシンボルは六芒星であり、いわゆるキリスト意識を象徴しています。なんのキリストロゴスでしょうか？自己実現に到達した現在のパーソナリティーのそれです。これが実際、LifeのなかでLifeを現わしているプロセスです。なぜなら、Lifeそれ自身の内側にLifeの現れがあるからです。

　ですから、何であれ絶対存在から現われているものはまた、Lifeです。それはLifeではない何かではなく、Lifeからのものでもありません。ですから、何であれ創造界のなかで存在し、実在しているもの、それはLifeそれ自体か、あるいはLifeによって活性化されているものなのです。全てのなかにLifeがあり、最小から最大まで何であれ私たちの周囲にあるもの、実在する全てのなかにLifeを見いだすことができます。

Q：創造界は人間に恩恵、助けを与えるためであるということがわかりました。しかし、あなたは前にそれは現在のパーソナリティーのためであると言いました。今や、現在のパーソナリティーは天人のなかに吸収され、あるいはスパークが吸収されたとも言えますが、ですからそれは実際に消えたということです。ですから、恩恵はもう少し深くなり、現在のパーソナリティーのためと言うより、むしろ人間のイデアフォームまたは天人のためと言うべきではないでしょうか？

K：違います。それはLifeの現象としての現れが、その役割に到達するためです。その役割とは自己実現です。言い換えれば、惑星ロゴスです。なぜなら、惑星上の全ての人間に同調または同化さえできる自己実現したスピリットセルフの結果だからです。そして何であれ人間が前に進むために人間が必要とするものに応じて、それは様々な物理的現象と共に体験を与えます。

　痛み、今世界のあちこちで起きている大惨事などをもたらしている物理的現象を罰としてみなすべきでしょうか？答えはノーです。惑星ロゴスは必要な体験を与えています、それによってLifeによって与えられている様々なサイクルの能力、可能性を利用することができるようにです。その利益、恩恵とは現在のパーソナリティーが達成する進歩・成長の結果です。

　Lifeそれ自体にとっては、真に利益というものはありません。なぜなら、Lifeには動き・振動・波動という主な特質があり、その影響、結果は避けがたいものであり、それはただ生じます。そしてその結果があり、私たちにはディバインの終わりなき黙想と共にあるLifeのスパークとしてのLifeの動きがあります。しかし、勿論その結果として何らかの恩恵があるはずです。ですからLifeの本質を現わさない体験が起きていますが、それは何かがその現れのために達成されるようにです。

　惑星ロゴスは“永遠に”惑星ロゴスに留まると思う人もいるかもしれません。しかしそうではありません。他の自己実現したスピリットモナドセルフが交代するでしょう。つまり、それ自身の微細なスパークが惑星または銀河系その他を司るようになることでしょう。なぜなら、絶対存在の多重性のワンネスのなかには、無数のモナドセルフがあるからです。それは果てしない、終わりのないプロセスです。ですからこの終わることのないディバインの黙想が終わるという“時”はありません。ですから、Lifeの本質を完全には現わしていない現れが恩恵を受けるためです。Lifeによって活性化され、内側にLifeを有しているもののためです。

　活性化されたと言う時、それは他のLifeの王国を通じた他のLifeの現象（＊植物、動物）のことではありません。それらはLifeの息吹の結果であり、それらは実際エレメンタルです。人間の場合にはそれらと同じではありません。人間は異なっており、人間にはモナドセルフとしての神が内側にあります。

　あなたがモナドセルフとしてあなたのLifeの息吹とともにエレメンタルを活性化するとき、あなたはそれら無数のエレメンタルを活性化することができるのです。

Q：動物たちはエレメンタルですか？

K：勿論、彼等はエレメンタルです。そして彼等はマインドの低次の波動を使って存在しており、それは植物界でも同じです。ご存じのように物質はマインドの一番低い波動です。そうです、肉体は物質から出来ています。しかし、物質が存在し、実在するのは、その内側にLifeがあるからです。

Q：それでは聖霊的に創造されたものは全てエレメンタルなのですか？なぜなら、人間だけが聖霊的に創造されたのではなく、誕生したのです；それ以外は聖霊的に創造されたものです。それゆえにそれらは神によって創造されたエレメンタルなのですか？

K：そうです、しかし惑星はどうでしょう、私たちの惑星、私たちの惑星を例にとってみましょう。ロゴス的現れである惑星ロゴスがいますが、それがこの惑星を築いたと思いますか？あるいは惑星ロゴスは惑星を維持するために働いているのでしょうか？ロゴスはいくつかの手を使っており、惑星の世話をしているそれらの手は聖霊的現れです。様々なアークエンジェルが惑星ロゴスからの“指示”のもとに働いています。そうです、体は聖霊的に築かれており、それは聖霊的に維持されますが、しかし惑星を管轄しているのはロゴスであり、Lifeそれ自体です。しかし､勿論築く、維持すると言う時、そこには惑星それ自体の中で無数のLifeの他のスパークがあるからです；ですから、それをエレメンタルと呼ぶことができるでしょうか？

　実際、ノーです。それはエレメンタルではありません。なぜなら、この惑星地球を管轄している自己実現したLifeのスパークがあるからです。動物は彼等を活性化するLifeのスパークを内側にもっていません。しかし、彼等にはそれぞれ特定の種を司っているアークエンジェルからのLifeの息吹があり、無数のモナドセルフが奉仕しています。

Q：しかし、この惑星は（＊生命の木で）上の長方形におけるディバインの黙想によって創造されました。そこで維持されるのではなく、築かれたのです。

K：元型としてのイデアとして、それは上から二番目の長方形と共通の底辺を持つ一番上の長方形からスタートします。つまり、それは創造の諸世界と現れのなかに入ります。勿論黙想は上の方の長方形のなかですが、しかし創造は上から２番目の長方形のなかでスタートします。

　Lifeの動き・振動・波動である原因があり、これが最終的結果であり、これらの特質の結果があります。しかし、要するに、結局全ては全てのなかにあります…現れのそれらの波動においても。しかし、人間はそれを認識しないのです。

　上の方の長方形のなかに三角形（＊下向きの三角形）のほとんどの部分があり、小さな部分が２番目の長方形、つまり創造の諸世界の中に入っています。

　これは全てを活性化するLifeの海を意味しており、全てと言う時、私たちも含まれています。主は全ての人間を活性化して生かす光である、と言う時、Lifeのスパークとして私たちはどこから来ると思いますか？そのスパークは右側の三角形から来て下降します。

　Lifeの海は最初からスタートしますが、イエスキリストロゴス絶対存在はこの三角形です。それもまた全体です；しかし、頂点の中心においてフォームがあり、現在のパーソナリティーが自己実現へと到達していきます。手段として主のフォームを有し、それを通じて私たちの本質を現わしていくのです。それゆえにキリスト意識を意味する六芒星があるのです。

Page5

Q：伝統的宗教ではイエスキリストは神の息子です。しかし私が理解する限り、彼は神なので、神の息子ではありません。

K：しかし、時には彼は自分自身を父とひとつである、と言いました。ひとつと言う時、それは父であり、他の場合には人間として言います。彼は自分自身を彼の父よりも小さなものとして呼びます、つまり彼のLifeの真の本質においてではなく、現在のパーソナリティーとして。

Q：しかし、息子という考えは来るのですか？

K：息子？それはLife、父、Lifeの海、スパークから来ます。しかし、勿論、スパークは海と同じです。彼は父と言う時、彼はワンネスの多重性を意味していました。しかし父とひとつであり、多重性それ自体の一つの現れです。そして私たち全員が惑星上で自己実現に到達すると、そうです、私たちはセルフを現わします、惑星における人間の多重性、多様性として。私たちは一体としてのセルフを現わします。私たちの個々のモナドセルフに“気づいていながら”、違いと共に。しかし、私たちの現れはひとつなのです。

Q：あなたが私たち各人と言う時、私は即座にこの現在のパーソナリティーを考えますが、しかし実際、それはこの現在のパーソナリティーではないですね。

K：勿論違います。それは自己実現した現在のパーソナリティーであり、自己実現した人はスパークのなかに入り、もはや名前はありません。全ての人が自己実現に到達すると、全ての自己実現したモナドセルフは、そのスパークに与えられたものによってそれぞれ異なったカラー、色を帯びています。しかし同時に、Lifeの全てのスパークは“誰も”本質を完全に現わし、その本質はLifeとひとつになっています。ですから、この多様性全てはひとつのセルフとして表現されます。だからといって、各モナドセルフがまったく同じように振る舞うということではありません。

Q：その仕事をするときに違いが生じるということですか？

K：ひとつとして現れているので、違いはありません。説明しましょう。自己実現した現在のパーソナリティーが不可視のヘルパーとしてエクソマトシス（＊幽体離脱）の能力を現わしている時でさえも、この能力はLifeの本質のなかで与えられています。それについてはレッスンのなかで多重性として説明しました。それがLifeのスパークである一つのモナドセルフですが、そのLifeのスパークはそれ自身をLifeのイデアフォームの多くの同一体を使用することによって、それぞれの同一体を通じて、様々な異なった仕事をすることができるのです。しかしその声はひとつであり、これはオリジナルの体で、あれはオリジナルのコピーであると言うことはできません。あなたは10、20、100の体を通じてすらあなた自身を現わすことができるのです。数に限りはありませんが、しかしそれでも声はひとつです。そして例えば一つの体がその仕事を終えると、自動的にそれは残りの全ての体のなかに同化します。

Q：声は一つとはどのような意味ですか？

K：Lifeのスパークは一つで、それは10、100の体全てを通じて等しく、小さくなることはありません。体の数が多いからといってそのスパークが小さくなるわけではありません。声はひとつです、なぜなら同時に多くの体を通じて自分自身を現わすことができるからです。そして各体はあなたの他の全ての体とは異なる仕事を行います。

　一つの惑星上の全ての人間が自己実現したときもまた、そのようなことが起きます。しかし同時に、各モナドセルフ（スピリットではなく）は,魂としてのLifeのスパークである魂(Soul)もまたそれ自身の多重性を現わすことができるのです。

Q：しかし、モナドセルフは自己実現する以前でも多重性の能力があるのではありませんか？

K：そうです、しかし実際それを現わす理由はありません。魂のセルフエピグノシスとして、現在のパーソナリティーの諸世界のなかでそれ自身から微細なスパークを現わす以前は、それ自身をモナドソウル・セルフエピグノシスとして現わす理由はありません。しかし自己実現した現在のパーソナリティーにとっては理由があります。自己実現した現在のパーソナリティーと言う時、それは永遠のパーソナリティーを意味します。つまり今やスパークそれ自身です。これを明確にする必要があります。不可視のヘルパーとして助けるという理由の他に、他の太陽系、他の銀河系などにおいて他の人間達を助けるという理由があります。

Ｑ：それは自己実現した現在のパーソナリティーは永遠のパーソナリティーと呼ばれるということですか？

Page6

Ｋ：勿論です。それはスパークそれ自体です。永遠のパーソナリティーと言う時、それは実際Lifeそれ自身のスパークであり、もはや現象ではありません。もし転生のサイクルに留まる理由がある場合には、現象は現象(phenomenon)としてあり続けます。しかし、ある惑星上で全人類が自己実現に到達したなら、もはや転生のサイクルに留まる理由はありません。もはや誰もいかなる体験もしません、何かを得るという目的はありません。

　ですから、Lifeそれ自身ではなく、現在のパーソナリティーが恩恵を得るのです。惑星上に留まる唯一の理由は、Lifeの全ての能力（物質化、非物質化、そして物質としてそれ自身の体を物質化するなど）と共に他の人間たちに助けを与えることです。通りで誰かがあなたのそばを歩いているのを見るかもしれません。そしてその誰かは他の惑星から来たのかもしれません。

Q：自己実現したモナドは自己実現していないモナドよりもより多くを得ているということですか？獲得するといいますが。自己実現して何かを獲得するなら、自己実現していないモナドよりもランクが上という感じがしますが。

K：誰が得るのでしょうか？それは現在のパーソナリティーであり、Lifeのスパークではありません。このことは既に説明しています。

Q：はい、でも現在のパーソナリティーがひとたび自己実現したら…

K：しかし、そこに常にあるのはLifeのスパークです。Lifeそれ自体はなにも得ることはありません。このプロセスでは現象的に得るのです。

Q：しかし、それ以前には自己実現していないなら、下降してきた後、自己実現によって何かを得るわけです。

K：いいですか、アウタルキーのなかで自己実現するとしたら、何かを得るでしょうか？

Q：しかし、静止しているステートはありません。

K：そうです、静止しているステートはありません。そしてアウタルキーの中、Lifeのなかで静止しているステートがない場合、何かがあります。この動き、活動は結果を創造するはずです。そしてその結果とはディバインの黙想の動きです。何であれこの動きによって結果が生じます。そうです、私たちはその結果です；私たちはこの動き・活動における粒子です。

Q：はい、私たちはその黙想によるものですが、しかし、活動は色、カラーを帯び、機能するようになり、そこに何かを得るというものがあります。

K：このように説明しましょう；動きはそれ自体の動きを助けます。動きというとき、何であれそこにあるものです。それはそれ自身をも助け、永遠に続いていきます；それが実際に起きていることです。しかしこの動きを創造している存在は何も獲得することはありません。現在のパーソナリティーはLifeの本質を現わすでしょうか？答えはノーです。それゆえ、何かを得るのは影だけです。そして影はイリュージョンです。

Q：それならなぜ影を造るのですか？

K：何のため？なぜならLifeの主な特質は動き。振動、波動です。そしてそれは結果を創造します。全ての中にそれはあり、実在します。私たちはそのなかに動きを見いだすのです。

Q：それは全てわかります。しかし私は実質的な理由を知りたいのです。人がこれらを通過、体験するのだから利益、恩恵があるはずです。ですから私はその利益は現在のパーソナリティーではない、なぜなら現在のパーソナリティーは同化して消えてしまうからです。それはスパークです。ですから自己実現したそのモナドが目的に奉仕します。

K：あいにく、Lifeにはいかなるニーズもありません。もしLifeのために利益が生じるのなら、Lifeにはニーズがあることになります。現在のパーソナリティーが活性化しても、なにも失われません。

Q：はい、しかしあなたは私を混乱させています。なぜならそれは別のことですから。

K：私が言いたいのは、アウタルキーに影響を与えるものはないということです。なぜなら、全てはアウタルキーのなかにあるからです。それは場所、意味、神の外側ではありません。すべては神のなかで“生じている”のです。

Q：このように簡単に言えるでしょうか：もし私が何かを手に取り、それを泥の中に落としたらそれは泥まみれになって、それが何かわからなくなります。私がそれを洗って汚れを落とします。しかし、まったく前と同じではありません。そこには色づけ、カラリングがあり、それは前とは別のものだと認識します。ですから、もし私が自分自身を泥のなかに入り、再びそこから出てくる時、何かを得るのではと思うのです。

Page7

K：あなたは自分の本質が変わったと思いますか？

Q：いいえ、本質は変わりませんが何かが変わります。

K：あなたはこの動きのなかで認識します。何であれこの動きのなかにおいて行ったことについて。しかしアウタルキー内の本質は不変です。

Q：そうです、しかしその時私はそのなかに落ちて、そこから出てきたということを認識します。そして今自分はそれを何回もすることができることを知ります。

K：自己実現したスピリットセルフが、例えば惑星ロゴスとしてそれ自身のスパークを表現せずにアウタルキーのなかに留まるなら、その達成とは何でしょうか？

Q：そのスピリットが何もしなければそうですが、しかし活動するなら助けるという能力になります。

K：いいですか、アウタルキー内に留まるのはそのスピリットではありません；スピリットから現わされたスパークがロゴス、惑星ロゴス、あるいは太陽系のロゴスその他になるのです。そしてそのスパークが無知のなかにいる人間達を助けるのです。

Q：アークエンジェルにはそのような能力がなく、ロゴスになることができないのです。

K：Lifeにとって獲得するものがあるでしょうか？最終的に得るのはLifeの影であり、Lifeそれ自体ではありません。目的はLifeの主な特質の結果です。そしてこの特質がなければLifeはありません。それは動きそれ自体です。

Q：私たちは皆が同じことを理解したと思います。しかし、そのような説明の仕方に同意したわけではありません。

Ｋ：いずれにしても、このリアリティーを言葉を使って説明するのに、他の言い方はありません。誰かが賛成するか否かはその人自身の問題です。私たちは何であれ提供したものを受け取るように強制することはしません。人は自分は理解できないと言うことはできますが、私は同意しないという時には、それに代わる答え、説明をすべきです。

Ｑ：誰かがその目的を理解するのは非常に難しいことです。

Ｋ：もし目的に奉仕しないのなら、なぜそのスピリットは自己実現したスピリットになるのでしょうか？アウタルキーの中では奉仕するという目的もありません。ニーズがないからです。実際の仕事は、ディバインの黙想の活動のなかで、Lifeの影であるそれらの現れがその目的に到達できるように助けることであり、それは終わりのないプロセスです。あなたがそこに到達したら、誰かがそれに続くというようになります；つまり銀河系のなかで、超銀河系のなかで、太陽系のなかで等というように。これは終わりなきプロセスであり、ディバインの黙想はこのためにあるのです。

　例えば、もしあなたが自分自身を自己実現したスピリットセルフ、モナドセルフであるとみなし、惑星ロゴスであるなら、あなたはLifeとして何を達成しましたか？現れとしてあなたは自己実現へのプロセスを経てきました。自分自身のなかで経験があり、より多くの同胞の人間たちを助けることができます。そしてこのようなあなたの役割が終わった時、あなたはスピリットセルフとして何を達成したでしょうか？何も達成しません。アウタルキーのなかではいかなる必要、ニーズもありません。ですから、アウタルキーのなかにいる絶対存在はなにも得ることはありません。これら全てのプロセスは現在のパーソナリティーの益のためでありLifeそれ自体の益のためではありません。

Q：それはわかりました。アウタルキーのあるレベルではあなたが何であっても、違いはないのです。より低いレベルではこの動きのなかで助けることができるようになるためにこのプロセスを経ることが重要なのです。

K：しかし、今説明したように、自己実現したスピリットセルフですら得るものはないのです。それは絶対存在の永遠の黙想の動き、活動です。

EREVNA IIYP37 KE06/?3